

DIRECTFORCE 本部、部会・研究会活動報告

<目 次>

世話役一覧表

- 1. アカデミー本部**
- 2. 企業ガバナンス部会**
- 3. 技術部会**
- 4. 教育部会：理科実験グループ**
- 5. 教育部会：授業支援の会**
- 6. 環境部会**
- 7. 観光立国研究会**
- 8. 食と農業研究会**
- 9. 健康・医療研究会**
- 10. モンゴル研究会**
- 11. 超寿企業研究会**
- 12. 成長支援グループ**
- 13. 100 歳社会総合研究所(New)**

2019 年 3 月 25 日(月)
一般社団法人ディレクトフォース

DF部会・研究会世話役 覧 2019.3.25

	部会名	世話役	メールアドレス
1	企業ガバナンス部会	村智憲	tomura@directforce.org
2	技術部会	酒井和幸	la_sakai0102@jcom.zaa.ne.jp
3	教育部会	守屋雅夫	m-masao@iris.ocn.ne.jp
4	理科実験グループ	関 洋	heyritz@ados.view21.net
5	授業 援の会	遠藤恭	kyoendo@iris.ocn.ne.jp
6	環境部会	川正廣	nuravs@kph.biglobe.ne.jp
7	観光 国研究会	横井時久	yokoi256@jcom.zaq.ne.jp
8	と農業研究会	峯脇達也	tminewaki1945j@gsc.gr.jp
9	健康・医療研究会	江村泰	emra-roki1988113@outlook.jp
10	モンゴル研究会	櫻井三紀夫	sakuimichi1119@yahoo.co.jp
11	超寿企業研究会	平井隆	ryuichi3@qj9.so-net.ne.jp
12	100歳社会総合研究所	嶋 志郎	tashimava@aimail.com

アカデミー本部 17期 上期実績・下期計画

1. アカデミー活動の意義・ミッション

- ・ 会員の参画意識醸成と満足度向上
- ・ 社会環境変化の認識に対応した社会貢献活動推進
- ・ 部会・研究会活動の支援（⇒企業支援者の底上げ）

630



250

経糸-緯糸

2. 取り巻く社会環境変化への対応

- ・ 次世代産業・新技術関連講義 授業の要請
- ・ 教える授業から考えさせる教育へ（アクティブラーニング、入試制度改革）
- ・ リカレント教育の増加（定年延長・働き方・女性活躍）
- ・ グローバル化に伴う留学生、海外研修受け入れ増加
- ・ 大学の経営難（社会構造の分極化、地域・収入格差増大）
- ・ 行政による教育機関の評価、助成金制度活用

3. 活動実績・計画

- ・ 大学のニーズ把握、新しい講師の発掘による従来活動の着実な継続
- ・ 会員からの紹介による新規講座、講義、授業の獲得
- ・ 情報共有による部会・研究会活動支援、（各会へのオブザーバー参加）
- ・ アカデミー勉強会開催による会員相互研鑽の強化
- ・ 講師数 150 コマ数 420 年間 7 百万円台の収入

150

420

4. 今後の課題

- ・ 教育方法の変化、新産業形態への対応、
- ・ 講師定年制への対応 60 歳代の講師確保
- ・ 英語で講義・授業できる人材の確保

● 大学等講師派遣

大学等-21 市民講座-3 企業研修-2 生涯教育講座-2 海外研修・留学生-6

平尾光司氏、市古紘一氏、横井時久氏、毛利正人氏、保坂洋氏、関西支部のご尽力で新規獲得
昭和女子大学、東京電機大学、東洋大学、専修大学、二松学舎大学、関西ペイントほか

● 海外研修生受け入れ・留学生向け

Portland 大学大学院
2018/9/3～5
2019/8/7～9

JTBGMT 中国
一汽 TOYOTA グループ
2018/11/9

JTBGMT 北米
Texas 大学 MBA
2019/3/19～22

専修大学留学生
2018/11/19
2018/11/22

JTBGMT 中国
広州市工業新材料協会
2018/12/6

東洋大学
2018/10/7
2019/1/16

● アカデミー勉強会開催

グローバルシリーズ

第1回	インドネシア	6月5日	猪野久仁朗
第2回	韓国	6月11日	水口泰介
第3回	ロシア	6月21日	菅原信夫
第4回	アフリカ	7月31日	古屋昭彦
第5回	中国	8月21日	杉本和彦
第6回	イスラエル	10月11日	西村誠司
第7回	ベトナム	11月5日	平井隆一
第8回	チリ・ペルー	12月11日	澤田賢治
第9回	ブラジル	1月21日	栗田政彦
第10回	UAE	2月19日	中西聡
第11回	モンゴル	3月11日	清水武則
第12回	オセアニア	4月15日	段谷芳彦
第13回	エクアドル	5月21日	小瀧徹
第14回	マレーシア	6月19日	能間博司
第15回	タイ	7月17日	三竿郁夫
第16回	イラン	9月17日	越川頼知

テクニカルシリーズ

第5回	PowerPoint	3月29日	三納吉二
第6回	PowerPoint	4月9日	三納吉二
第7回	PowerPoint	5月11日	三納吉二
第8回	PowerPoint	5月23日	三納吉二
第9回	Excel	12月21日	小林慎一郎
第10回	Word	2月5日	森川紀一
第11回	Office	3月29日	森川紀一
第12回	Office	4月11日	森川紀一

フィールドワークシリーズ

第1回	東京駅山手線	6月13日	
第2回	東京駅山手線	7月1日	
第3回	巣鴨・飛鳥山	3月15日	
第4回	巣鴨・飛鳥山	3月23日	

● 在宅事務局員 (SOHO)

3名 (横山英樹氏、松尾裕氏、宮本幸始氏)

以上

2019年3月25日

企業ガバナンス部会について

企業ガバナンス部会長 戸村良雄

1. 趣旨

DF 会員のうちで、企業の社外役員などへの再就職を考えている方々や、現在社外役員として活躍中の方々に対し、「時代の要請に応じた」社外役員等になって頂くための、各種実践的な内容のセミナーを実施している。

その他、上記の方々に自己研鑽を場を提供するため、小グループから成る小研究会を組織し、研究及びその成果発表を行っている。現在は14期目。

2. 体制

企業ガバナンス部会長及び6名の世話役で運営を行っている。

3. 活動内容

(1) セミナーの開催

年9回程度実施（別添「セミナー年間スケジュール表」参照）

(2) 小研究会の運営

- ・例年11月に部会世話役会において、研究テーマを設定（二つ程度）
- ・12月に研究メンバーを募集、同月から研究活動を開始。部会世話役がメンターとして助言・アドバイス等を行う。
- ・翌年6月に成果発表会を主にDF会員を対象に実施。

4. 今後の計画及び課題

- (1) セミナーの内容及び小研究会の運営を更に充実させていきたい。
- (2) 現7名の体制では、活動全般に対して十分なフォローが出来ないことから、現在セミナー開催時にパソナグループ会社が準備等の業務支援を実施中。
- (3) より円滑な活動のために、今後業務支援依頼の拡充も検討していきたい。

以上

企業ガバナンス部会 第14期セミナー年間スケジュール (2018年9月～2019年6月)

統一テーマ： 実効性ある企業統治に貢献できる社外取締役・監査役等になるために

2019/3/12現在

回次	開催日時	セミナーのテーマ	講師	内容	会場	参加人数
1	2018.9.19 (水) 14:00--16:00	体験的企業ガバナンス論 基礎編 (1) ー監査役が直面する諸課題ー	板垣 隆夫氏 一般社団法人監査懇話会・理事 日本経営倫理学会・会員	監査役制度が直面する諸課題について、内部監査部長、監査役としての体験からみる監査役・内部統制の課題を取り上げ、①監査役的人事的脆弱性、②内部統制報告制度と監査役の役割、③三様監査の連携の深化等を詳しく解説する。	日本ビル10階 セミナールーム 10C	39名
2	2018.10.17 (水) 14:00--16:00	体験的企業ガバナンス論 基礎編 (2) ー監査役・ガバナンスの課題ー	板垣 隆夫氏 一般社団法人監査懇話会・理事 日本経営倫理学会・会員	『監査役覚悟 (同文館出版、2016)』等に見る監査役・ガバナンスの課題 厳格化する監査役の法的責任への対応 監査役が直面する新たな課題	日本ビル10階 セミナールーム 10B	34名
3	2018.11.14 (水) 14:00--16:00	仮想通貨の現状と未来 ー国際的な動向も踏まえてー	中島真志氏 麗澤大学経済学部 教授 日本銀行出身	近時、非常に話題を集めている仮想通貨について、その現状と未来を主に通貨の機能という観点から、国際的動向やわが国の現状なども踏まえて詳しく解説する。	日本ビル12階 セミナールーム 12A・B	50名
4	2018.12.12 (水) 14:00--16:00	最近のガバナンス改革の流れと会社法 ー社外取締役の経験も踏まえてー	上村達男氏 早稲田大学法学学術院 教授	近時、日本企業のコーポレートガバナンスの制度とその運用が大きく変化してきている。しかし、そのような動きは本来の会社法の在り方と整合しているのだろうか。資生堂の社外取締役の経験なども踏まえながら、この問題に鋭く迫る。	日本ビル12階 セミナールーム 12A・B	53名
5	2019.1.17 (木) 14:00--16:00	中堅・中小企業におけるガバナンス制度と運用	岡安俊英氏 岡安総合会計事務所 公認会計士・税理士	大企業とは異なる点も多い中堅・中小企業のガバナンス・監査の制度と運用について、取締役会等の組織体制、取締役及び監査役の業務執行、内部統制等を中心に、押さえておくべき重要なポイントを詳しく解説する。	日本ビル10階 セミナールーム 10E	44名
6	2019.2.19 (火) 14:00--16:00	最近の社外取締役・監査役の実務課題 ーこの一年間のまとめと今後への展望ー	杉田 純氏 三優監査法人会長	社外役員現職・希望者ともに必須の講座である。講義の語り口の面白さと中身の濃い資料が相俟って、安定した高い人気を誇る。年度末前に改訂・新設法規をアップデート。	日本ビル12階 ホワイエ	68名
7	2019.3.26 (火) 14:00--16:00	英国のコーポレート・ガバナンスからみた日本の課題 ーソフトウェアとハードローの関係ー	川島いづみ氏 早稲田大学社会科学部 教授	2015年6月よりわが国でもソフトウェアであるコーポレート・ガバナンスコードの適用が始まった。これを英国のコーポレート・ガバナンスの状況と比較しつつ、わが国の課題をソフトウェアとハードローの関係にも触れつつ解説する。	日本ビル10階 セミナールーム 10B	
8	2019.4.16 (火) 14:00--16:00	ガバナンスとM & A ー資本コスト経営との関係も含めてー	岡 俊子氏 株式会社岡&カンパニー 代表取締役	成長戦略・事業承継問題対策として、中堅・中小企業にも今や必須となったM & Aとガバナンスの関係について、資本コストといった点も踏まえて分かりやすく解説します。	日本ビル5階 セミナールーム 5C	
9	2019.5.14 (火) 14:00--16:00	企業不祥事はなぜ繰り返されるのか ー近年における数々の品質偽装事件も踏まえてー	今井 祐氏 (株)今井経済・経営研究所代表 元富士フィルム代表取締役副社長 日本経営倫理学会常任理事	近年不祥事を起こす企業は何回でも不祥事を起こす。そのたびに第三者委員会を作り原因分析～再発防止策まで作成しているが不祥事は止まらない。数々の品質偽装事例も踏まえてガバナンスの問題を取り上げて企業不祥事の本質を解説する。	日本ビル10階 セミナールーム 10E	

技術部会報告

1. 2018年活動実績

(1) 例会・工場見学会……瓦版としてDFホームページに掲載

2月例会:2月13日	講演「地球磁場逆転の歴史におけるチバニアン時代」 元南極越冬隊長 渋谷和雄会員	24名
4月例会:4月19日	講演「老化とは？」 佐藤和恵会員 講演「地熱資源および地熱発電所とその社会的ニーズ」 日本地熱協会運営委員長 安達正敏氏	32名
6月例会:6月29日	講演「高齢化社会における歯科医療の現状と課題」 昭和大学病院 七田俊晴先生 講演「日本の電力エネルギーの将来ー 地球環境に配慮して再生エネルギーを取り込む これからの電気事業の在り方」 東京電力ホールディングス電気技術戦略研究所 副所長 蘆立修一氏	25名
8月例会:8月20日	講演「イノベーション再考ー日本の課題ー」 技術ジャーナリスト(元日経) 西村吉雄氏	36名
10月工場見学会:10月25日	キューピー五霞工場(茨城)	29名
12月例会:12月14日	講演「介護の現状と行政対応の実状」 大田区 淵上虎平氏 講演「最新のがん治療の現状」 昭和大学 教授 吉村清氏	43名

* 理科実験グループと共催で忘年会開催

(2) 各分科会活動

経済産業懇話会: 毎月の講話会開催に加え8月例会は技術部会との共催としている
リスクセ恩斯推進研究会: フォーラム開催・ビジネスセミナー参加・研究活動(横浜国大と共同等)
医療懇話会: 先進の話題を中心に幅広く介護分野までカバーし年3回の講話を企画している
* 理科実験Gからも毎回活動状況を報告頂いている
* DF全体動向についても事務局より毎回報告頂いている

2. 2019年活動計画

2月例会(2月5日)	講演「三菱ケミカルの誕生と三菱ケミカルホールディングス の経営戦略」 三菱ケミカルホールディングス 執行役常務 池川嘉洋氏
4月例会(4月18日)	講演「富士写の事業継承戦略(仮題)」 DF会員 山田澄人氏
6月例会	工場見学と講演「昭和電工廃プラスチックリサイクルプラント」
8月例会	講演「クルマと自動車産業の現状と将来(仮題)」(共催)
10月工場見学会	国産ジェットMRJを検討中
12月例会	検討中

3. 課題

技術部会のミッションに基づき活動を進めているが「社会への貢献に努める」に関して
今一度方向性を旧世話役を中心に議論してみたいと考えている。

理科実験グループの現状と課題

2018年実績と今後の課題

2019年3月26日

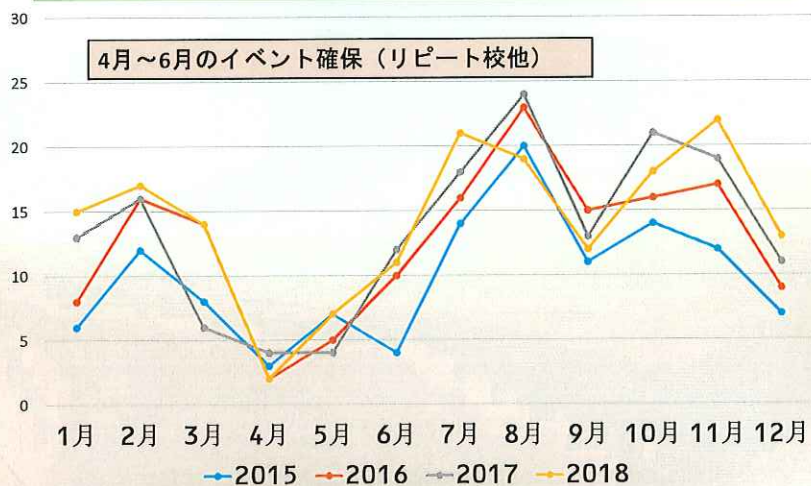
1. 2018年活動実績

- ① 年間イベント回数： 172回 (前年比+ 11回)
- ② メンバー数： 84名 (前年比8名増、2名減)
- ③ テーマ数： 20 (前年比+ 3)
- ④ 新規イベント数 29件 (前年比1減)
- ⑤ 中学校での出前授業： 7回 (前年比+ 2)

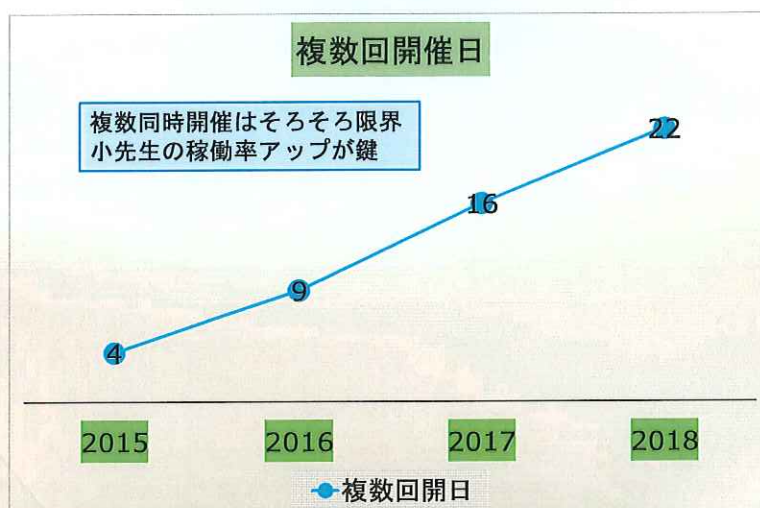
理科実験グループ活動実績



月別イベント開催数 2015年～2018年



理科実験教室 同日複数回開催日数



2. 現状の問題点

- 2016年5月17日集中討議
 - ☞ 目的に沿ったイベントを質・量ともに拡大
 - ⇒ 目的は達成されつつあるが、量はどこまで増やすのか？
実験の質を高め維持するには、小先生の質と量がKey
 - ☞ 「2018年を振り返っての意見交換会」 4/1 & 4/11
- 新指導要領（探求する授業）による学校側の要求の変化
 - ⇒ DF理科実験グループが考えている質は、世の中の要求とずれていないか？
 - ☞ 外部評価の取得（コミュニケーション）とフィードバック

グループの目的達成のためにすべきこと

・目的（運営規約より）

このグループは、我が国の次世代を担う子供達に、自然科学に対する適切な知識と強い関心を持たせ、自然科学への関与を将来の進路として選択することを喚起するために、生徒、学童及び未就学児童に、理科実験に参加する機会を提供して科学の面白さを体験させ、適切な科学的知識を習得させる活動（以下、活動という）を行う。

目的に沿ったイベントを質・量ともに拡大

目的に沿ったイベントの企画・拡大

討議分野1

イベント参加人数の増大

討議分野2

テーマの拡充

討議分野3

2019年 理科実験グループの課題V1

1. 小先生の量と質の充実
2. ELの育成と研修
3. 当日TLの育成
4. 外部評価の取得と理科実験への反映（テーマ、マナー）
5. 常設館に準じる実験拠点並びに主催イベントの拡充
6. 助成金の活用検討

理科実験グループの現状と課題

- ご清聴ありがとうございました。

2019 年 3 月 25 日

授業支援の会報告

遠藤恭一

1) 現状：

実働会員数 33 名 2018 年度講義実績 講座コマ数 54
受講生数 約 7,200 人

- ・ 2018 年度に注力したことは「時代変化の流れの中で学校側の要請に如何に対応するか」であった。この為、昨年 12 月に初めて 1 泊 2 日の合宿を実施。

2) 課題：

2020 年度から変わる大学入試制度改革への対応。知識詰め込み型の教育から、自ら学び考える力を伸ばす教育へ。新たな教育方法の導入へ向け講義・討議のスキルアップ。

- ・ 若者たちの現状の把握、学校は具体的に我々に何を求めているのか。
- ・ 過去の体験の披瀝のみでは限界。失敗談から何を得たのかの気付き。
- ・ 若者の意識、関心、学校側の期待値等を認識した上での迎合することなく、伝えるべきは伝える。

3) 問題点：

- ・ 学校側の要請が高度化してきている。生徒の関心も多岐に亘り、クラス編成ごとの

授業内容に変化が求められている。

例えば、選抜特進クラス向けとスポーツ専科クラスでは授業内容は当然違う。

こうしたものに対応する必要あり。

- ・ 偏差値の高い学校からの授業要請も増加傾向にある。各学校向けのオリジナルな授業が求められている。
- ・ 上記の内容等から各講師の講義内容評価を検討する必要性が高まって来ている。合宿の成果として、4 つの課題へ、タスクフォースチームを編成して本年 10 月を目途に答申を作成中。
- ・ 4 つの課題とは
 - 1) 授業支援の会の究極のメッセージとは何か
 - 2) 教育改革への対応
 - 3) 新規開拓について
 - 4) AI/IT 技術の進展をどう捉えるか

以上

環境部会

2019.3.25 部員数 58名 世話役 西川政廣

副リーダー 三竿郁夫

四つの環境分科会 環境問題の理解の輪を拡げていくことを目的に「持続可能な社会」の構築に向けた活動を行う。

1.環境教育分科会 「ものづくり大学・大学院」「二松学舎大学」講義実施
小・中学校での出前授業 テーマ検討と講義実施

リーダー 中西 聡 副 三竿 郁夫
18名

2.見学企画分科会 再生エネルギー、省エネルギー、環境問題関連施設の見学実施し知見をひろげる
年/三回、実施 「三代目南極観測船しらせ」「東京都環境公社主催スーパーエコタウン」等

リーダー 廣島 輝文 副 庭野 隆
28名

3.セミナー企画分科会 環境に対するテーマ選定と第一線の専門家の解説・評論などセミナー開催の企画と実施
「リチウムイオン電池」「気候変動と人間社会」等

リーダー 佐々木 正延 副 戸田 宗男
10名

4.自然保全活動分科会 「仲間と共に現地に足を運び、汗を流し自然保全・改善に取り組む」
1.平塚ゆるぎ地区活動
2.富士山学びの森 森林再生ボランティア
3.千鳥ヶ淵でのさくら再生ボランティア

リーダー 平井 隆一 副 杉野 恭 、 高山重憲
24名

以上 2019.03.25

観光立国研究会について

1. 観光立国研究会の主旨

日本人が海外を旅行する数は世界のトップレベルである。しかし、海外からの来日観光客の数はまだトップレベルではない。政府は観光立国に力を入れ始め、オリンピックを契機にインバウンドの勢いは増している。外国人を受け入れる日本人の意識を変えること、インフラを整備すること、観光資源を見直すこと等、することはたくさんある。ディレクトフォース（DF）には、世界的な視野を持ち、観光事情に詳しい人が大勢いるので、これらの経験と知見を活かして、観光立国への貢献ができたらの願いから観光立国研究会が設立された。

2. メンバー

メンバーには、航空会社、鉄道会社、建設会社、メーカー、エネルギー会社、金融会社、商社、リゾート施設等の出身者約30名がいる。

3. 活動内容

- 1) 日本の観光産業における問題点を調査し、関係機関との協議や発信を行う。
提言書を観光庁に提出した。
- 2) 外国人観光客の誘致に関心のある地域を対象に、観光客の誘致やインフラに関するアドバイス、通訳ガイドの紹介を行う。
- 3) 観光、企業誘致、人材の移動を含む地方創生の活動を行う。
- 4) 地域を結んだ観光ツアーや DF 会員の出身企業を組み合わせた工場見学ツアーを企画する。
- 5) 日本の伝統芸能に馴染んで貰う企画を作成する。日本の文化や生活に親しみながら体験を積み、大いに楽しんで貰う事を願っている。
- 6) 旅の本の発刊により、地方創生の進化に貢献する。
- 7) 大学や市民講座で観光講座を開く。

2019年3月吉日

ディレクトフォース観光立国研究会

世話役 横井時久

yokoi256@jcom.zaq.ne.jp (090-8726-8079)

食と農研究会 平成30年度活動報告

平成31年3月25日

代表世話人 峯脇 達也

現況

会員数 32名

世話人 四方 満、藤田 公一、守屋 雅夫、中尾 誠男、渡辺 明、峯脇 達也、
アドバイザー 坂井 尚平、

活動実績 2009年3月 食と農業研究会発足。

累計活動回数 31回

平成30年度活動報告

1月 9日 新年会

4月28日 視察

群馬県利根郡 野菜クラブ 訪問視察・ヒアリング。

6月21日 勉強会 モビマス児玉社長

「岩手県八幡平にてAIによるバジル栽培と町の活性化」 事例報告。

9月13日 見学会

茨城県石岡市 タカノフーズ（おかめ納豆）工場見学。

平成29年度

① ハウス食品静岡工場 レトルトカレー工場、カレー工場、自動倉庫 見学。

② パナソニック福島植物工場 見学。

③ 宮城県遠田郡 コメ生産農家視察 黒澤ライスサービス（週刊ダイヤモンド誌で
2年連続高収益農家として紹介）

④ 風来 西田社長 講演会

「石川発！日本一小さな農家の挑戦・無農薬より上を目指して」

以上

健康・医療研究会活動報告 (2018 年度：2018 年 4 月～19 年 3 月)

- 1 セミナー開催 : 別紙：原則各奇数月開催
参加者 30～40 名/回
- 2 研究会開催 18 年度 6 回開催(偶数月)
内容： ① 直近に実施したアンケート結果の解析
② 今後のセミナーのテーマ、講師検討
③ その他
- 3 企業支援
② 研究会として実施 クロスウェル社
(心拍数変動による自律神経計測アプリ)
4～9 月 12 回支援会議開催、経営戦略検討等
③ 協業を検討 健康寿命デザイン社 (歩行速度計測アプリ)
④ その他 DF の企業支援 アルプロン社、横浜市創業支援 PJ 等
ヘルスケア関連のベンチャービジネス支援にメンバーとして参画
- 4 その他
3 月 1 日 ロコモ度テスト実施、会員 27 名参加
- 5 今後の計画
 - ・ セミナーの今後のテーマ候補は別紙のとおり
 - ・ 収容力のある会議室を安定的に確保できることが課題
 - ・ 企業支援はバイチャンス (DF 全体との連携)
 - ・ 今期以降、単なる受動的なセミナー受講にとどまらず、当方から会員への健康医療にかかわる情報発信も検討していく (ロコモ、生活習慣病、百歳社会)
- 6 課題と解決策
 - ・ 研究会メンバーの拡大、
 - ・ 研究会メンバー以外の会員間ネットワーク作り、他部会との連携
 - ・ 関与する企業・医療施設・関連機関との連携の拡大
(例：健康長寿医療センター、大阪大学、ロコモチャレンジ協議会、パソナその他)
→HP、セミナーその他情報発信の機会を活用し。われわれの活動をアピールしていく。

2018 年 4 月～ セミナー開催実績

第 8 回	2018/ 4/5	糖尿病と生活習慣あれこれ	そねクリニック理事長	曾根 正好先生
第 9 回	5/9	自律神経のしくみとその障害による疾患、対処法	東京都健康長寿医療センター研究所研究員	内田 さえ先生
第 10 回	7/9	笑いの健康学＜笑って脳を活性化＞	日本成人病予防協会健康管理士、日本笑い学会講師	藤井 敬三先生
第 11 回	9/11	認知症を受け入れよう	東京医療学院大学教授	上田 諭 先生
第 12 回	11/21	口から見た長生きの秘訣	東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科部長	平野 浩彦 先生
第 13 回	2019/ 1/17	『人生百年時代』を生き伸びるための運動器と運動の重要性	伊奈病院整形外科部長	石橋 英明 先生
第 14 回	3/1	百寿者の秘密	大阪大学人間科学研究科教授	権藤 恭之 先生
第 15 回	5/15 (予定)	高血圧、高脂血症(仮題)	そねクリニック理事長	曾根 正好 先生

今後のテーマ候補

- ・ 泌尿器疾患（頻尿、前立腺等）、7 月？
- ・ 健康とスポーツ 9 月？
- ・ 高齢者の栄養摂取
- ・ 先進医療
- ・ 介護施設の選び方等々
- ・ 免疫（ガン、アレルギー疾患、インフルエンザ等々）

DFモンゴル研究会の概要

2019. 3. 25 世話役 櫻井 三紀夫

1. 研究会の目的

「モンゴル研究会」は、より良い日本―モンゴル協力関係の構築に寄与したいという意図のもと、「モンゴル商工会議所日本支社」、一般社団法人「モンゴルセンター」「在日モンゴル留学生会」などの関係機関と協力して、モンゴルが希望しモンゴルに貢献しうるDFとしての施策、あるいは、DFが日本の機関と協力して日本・モンゴル相互のために貢献しうる施策、などを多方面から検討し、実施に移していくことを目的とします。

2. これまでの実績

- ・ 2016. 8月 DF 15周年記念モンゴル視察旅行、母子家庭支援の古着寄贈
- ・ 2017. 2月 モンゴル緊急医療支援、カシミヤ製品販売・寄付
- ・ 2017. 3月 モンゴル研究会・第1回研究会、以降、3か月毎に研究会開催
- ・ 2017. 7月 在日モンゴル大使館訪問
- ・ 2017. 12月 第3回研究会実施。 前モンゴル全権大使・清水武則氏の講演会を実施。 清水氏、DF・当研究会に入会
- ・ 2017. 12月 母子家庭支援の古着寄贈、ハワリンバヤル祭り（2018.5月）に寄付
- ・ 2018. 5月 ハワリンバヤル祭り（@光ヶ丘公園）訪問、留学生を激励
- ・ 2018. 9月～ 留学生会・就活プログラムを支援、日本国内企業との協議仲介
- ・ 2018. 10月～モンゴル高専支援・遠隔授業プロジェクトの企画検討開始

3. 2019年度の計画

2019年度には、以下の項目を中心に、モンゴルへの支援活動や相互理解活動を展開する計画です。

1) モンゴル高専への遠隔授業プロジェクトの推進

- ・モンゴル高専の学生向けに日本から講義を送信し、現地で同時通訳しながら授業する。
- ・講演のコンテンツは、DF授業支援の会、アカデミー本部の協力を頂く。
- ・講義の場所、送受信のシステム、通訳者、現地学生指導の先生などの整備を国立高専機構、モンゴル高専機構に依頼している。
- ・4, 5月にパイロット授業を実施。課題を対策した上で、夏休み明けから本格授業を実施する予定。

2) 母子家庭支援・古着寄贈プロジェクトの推進

- ・寄贈品の国内収集やモンゴルに送った寄贈品の配給などを円滑にするため、NPO法人「あたたかい心 in Japan」の協力を得ることを検討中。
- ・協力関係の構築が出来れば、寄贈品募集を計画する。

3) 研究会におけるモンゴル関連の講演開催

- ・モンゴルの文化・習慣・人間性・産業・ビジネスなどの基礎知識習得に役立つ講演を企画・開催する。

4) 留学生・就活支援プログラムの推進

- ・仲介中の国内企業との協議を継続すると共に、他の企業への仲介を検討する。

以上

超寿企業研究会 DF 部会&研究会 世話役会 報告

1. 経過その1:

DF 創立 15 周年記念事業で、2016 年 11 月から 2017 年 6 月まで、8 名による「長寿企業フォーラム」にて研究活動（13 回）

2. 経過その2:

2017 年 8 月から「長寿を超えて超寿へ」をテーマに「超寿企業研究会」が 9 名のコアメンバーで発足し、2019 年 3 月までの 32 回の会合で「超寿企業」の研究を重ね、昨年 7 月に中間報告会を開催、来る 4 月 5 日に最終報告会開催予定

3. 研究内容:

- (1) 目的: 長寿を超えた超寿企業を目指す企業を支援
- (2) 対象: 業歴があるベンチャー／中小企業
- (3) ツール: 15 社 + 5 社社長インタビューに基づく「資格要件評価表」
- (4) 推進者: DF 超寿企業研コアメンバー + 会員 630 名超の専門家集団
- (5) 手段: シンポジウム、各種発表会、個別企業へのプレゼン

4. 目的: 社会の公器であるベンチャー／中小企業の持続的成長への支援

5. 今後のスケジュール(案)

- (1) 4 月中旬に一旦、現メンバーでの研究会は解散する（解散式）
- (2) 新たなコアメンバーにより新メンバー募集し、拡大コアメンバーとする
- (3) 1st stage として、DF 超寿総研の新機軸を打ち出す。その内容は「ロングラン・グロース・ビジネス」で、「年輪経営」を実践すべくベンチャー／中小企業を長期に亘り支援する社会貢献活動としたい。その為には、DF 会員自身の長期コミットメントが必要
- (4) クライアントに応じたカスタムサポートチームを結成し、コンサルティングサービス開始
- (5) クライアントが多数となった段階で各社発表会を開催し、メンバー相互の交流を図る
- (6) その後、他の組織や団体などとも交流・提携し、シンポジウムを開催。

以上

成長支援グループ 「七人の侍」 活動報告

2019年3月25日

世話人 嘉屋正道

1. 経緯

2014年社団法人DFらしい社会貢献活動の一環として
企業支援部会の研究会として、ボランティアによる
中小企業の事業成長の支援チーム「七人の侍」を立ち上げた。

ふるさとの企業を支援しよう、光る技術をもつ企業の成長の支援をしよう
とのコンセプトで5年目を迎えた。

2. 活動

支援企業へチームで訪問して、支援会議を実施
異なるキャリア、それぞれの知見を活かして、支援企業の問題点について
議論を展開し、オーナーの成長への気づきを引き出している。
ただ、近時、支援企業が現われていない。
地方の中小企業の支援体制、システムが進化し、充実したことが一つの原因

支援企業の発掘が最大の課題。

月次に例会を開催して、既往支援企業のアフターフォロー
支援企業の発掘などの打ち合わせをしている。
サカエの事例など

いつでも支援企業への活動ができるよう例会は継続していく方針。

3. 登録メンバーは七人だが、興味ある方には登録して頂き
支援企業への訪問時に参加頂きたいと思っている。

以上

経緯

昨年 11 月から真瀬さんの発案により

嶋矢さんを中心に中尾、平尾、藤村、保坂、山岡で数回の打ち合わせ検討を実施

関連資料の読み込み、DF 現行活動との関連検討

4 月 1 日に発足予定

目的

人生 100 歳時代の恩恵を賢く、存分に活用して、個人も国も活力と人づくりと国づくりへ DF 会員への提言と社会提言を行う

具体的には

- ・ DF 会員への貢献の充実 家族会員、低活動会員活性化・・・
- ・ DF が人生 100 歳のシニアのプラットフォームであることの発信
高齢者が元気で社会貢献をしている事例、姥捨て山論への反証
SNS 発信活用
各種研究機関との連携
- ・ 国家・社会への提言
各種研究機関との連携によるシンポジウム開催
東京大学高齢社会総合研究機構秋山弘子氏
慶應義塾大学医学部百寿総合研究センター広瀬信義先生との相談
寺島実郎氏、落合陽太郎など各氏と連携が取れば
各種研究とその発信
会員の知見集積、若手研究者の発信の場。紀要、機関紙発行
リカンレント教育の支援
クルーズ乗客用教育パッケージ、人生 100 歳仮設計パッケージなど

位置付け

他の研究会と同じ扱い

メンバー：助走期間は限定

他の機関との連携

健康医療

アカデミー部門・・・

と重なる部分が多いので連携を密にする

